

第16回物性科学領域横断研究会アンケート集計結果 回答数：70 件

1. この会議の開催はどのようにして知りましたか？

a. 日本物理学会のWebや学会誌で -----	1
b. 日本物理学会の各領域MLの案内で-----	1
c. 新学術領域・学術変革領域のWEBやメンバー宛のメールで -----	50
d. 知り合いの研究者からの情報で-----	14
その他：凝縮系科学賞の関係者から -----	1
所属する変革領域のmeetingで -----	1
毎年参加しています -----	1
主催者側 -----	1

2. この会議への参加はご自身にとって有意義でしたか？

a. 大変有意義だった-----	33
b. まずまず有意義だった-----	30
c. どちらともいえない-----	7
d. あまり意義がなかった-----	0
e. 全く意義がなかった-----	0

上記2. に関しコメントございましたらお願いします。

- ・分野外の発表が多くわからないことも多かったが、初めて知ることも多くとても勉強になった。
- ・領域紹介は参考になったが、具体的な研究の紹介は分野が違うものはわからなかった。
- ・直接話せないのは残念ですが、オンラインで気軽に参加できました。近い分野でも、基礎と応用面の切り口で言葉の壁があるのに改めて気づかされました。
- ・コンパクトに物性科学系の学術変革領域の内容を知ることができ、有意義だった。
- ・自分の研究の進展に寄与しそうな情報を得ることができた。
- ・各領域の学術的な意義を端的にわかりやすく把握できたのが有意義でした。
- ・大変興味深い講演が多かったと思います。特に凝縮系科学賞受賞記念講演は大変興味深い内容でした。
- ・最前線の研究進展を知ることのできる良い機会でした。
- ・学術変革の採択領域というかなり広範な研究領域間の発表という事もあり、普段、接する事が無い研究分野の講演や動向を知ることのできたのではないかと思います。
- ・他領域の最先端の研究に刺激を受けました。

3. 講演内容は全体として分かりやすいものでしたか。

- a. 大変分かりやすかった-----19
- b. まずまずわかりやすかった-----36
- c. どちらともいえない-----10
- d. ややわかりにくかった-----4
- e. 大変わかりにくかった-----1

上記3. に関しコメントございましたらお願いします。

- ・若手研究者の発表も分かりやすかったです。
- ・専門外なものがほとんどであったが、領域の目標とその内容が分かりやすく説明されていた。
- ・領域代表の説明は特にわかりやすかった。
- ・分野外の人に学術的な意義をわかりやすく講演した方とそうでない方がおられました。
- ・各領域の取り組み内容がわかりやすかったと思います。
- ・専門外の聴講者でもわかるように要点となる専門用語は略語を避け簡単な説明も入れるようにしてほしいといくつかの講演に関して思いました。
- ・凝縮賞受賞講演しか聞いていない。
- ・分野が違うため、わかりにくい発表が多かったのはやむを得ないと思います。お忙しい中、ありがとうございました。
- ・さまざまな研究分野の領域が参加しているので、専門が遠い領域の講演が理解困難なのは当たり前かもしれません。

4. 会議期間（2日）は妥当だと思いますか？

- a. 長すぎる-----4
- b. ちょうどよい-----65
- c. 短すぎる-----1

上記4. に関しコメントございましたらお願いします。

- ・他の講演を聞いていないので、わからない。

5. プログラム、若手一般講演、その他会議運営全般について、お気づきの点がありましたらご記入ください。

- ・若手一般講演を8つの部屋に分けるのは部屋数が多すぎるのではないかと思った。部屋あたりの参加者が少なくなってしまった。面白い発表が多かっただけにもったいない。
- ・雑談できるmixingの時間があるとよかったです。
- ・若手講演の平行セッションは良い方式と思いました。
- ・若手発表は会場数をできるだけ減らした方が参加しやすい。審査に関しても、より公平になると思われる。時間スケジュールの際、考慮してほしい（たとえば90分でなく、100分= 20 x 5）。

- ・授賞式で説明があったのかもしれないが、賞の受賞者がどう決まるのか、プロセスがよくわからなかった。
- ・若手講演において、各ブレイクアウトルームでの聴衆の人数がやや少ないように感じた。
- ・オンライン開催はよい。スライドを近くでじっくり見ることもできるし、何より、気楽に参加できる。
- ・会議のリンクが迷惑メールに振り分けられていたことに気付かなかったので、参加できませんでした。。。
- ・凝縮系科学賞も若手賞も、本人のオリジナリティーがどこまであったかが重要視されるべきではないかと感じました。オリジナルなアイデアが先行研究者・共同研究者から出ているとみられる点があいまいに評価されているように感じました。2番手以降の研究であっても応用・発展させた点が評価されるのは理解できますが（その方が論文引用数も多くなり、グラントもとりやすいですが）、一番評価されるべきは、0から1を最初に生み出したか否か、という点だと思えます。審査委員自身がそのレベルにあり、見識がないとオリジナルな成果をきちんと評価できないということだと思います。
- ・幅広い領域から参加の会議運営で大変なご苦労かと思いますが、大変ご苦労様でした。若手一般講演という枠組みは、普段の学会等と異なり幅広い研究分野の参加する場での、若い研究者の貴重な発表の機会として良いものではないかと思えます。
- ・より、多くの人に聞いてもらえるよう、今後もハイブリッド（一般視聴者にはYouTubeでライブ配信など）で行うといいと思えます。

6. 物性科学領域横断研究会に期待・希望されることは何ですか？

- ・若手一般講演をもっと聞きたかった。
- ・一部でも聞けるように、引き続きオンラインで参加できるようにしてほしい。
- ・分野外の発表を聞く良い機会ですが、横断研究会の開催意義をもう少し明確にすべきかと思えます。せっかく一流の科学者が一堂に会する機会なので、アウトリーチ的に一般公開にしても良いかと思えます。特に、先端科学に興味をもつ高校生や大学生を対象にしてはいかがでしょうか。
- ・福山先生、秋光先生が引退されたあとにも継続して研究会を開催できる体制を整えてください。
- ・運営委員会の皆様どうもありがとうございました。次回はオンサイトで開催できることを願っています。
- ・学術的問い（何がわかっていて、なにがわからないか）と展望（将来何がわかると意義があるか）を端的にわかりやすく講演いただけると、他分野へのシナジー効果を高め、広範な分野全体に有益であると思えますので、ぜひそのような講演がなされるよう、期待いたします。
- ・このままの形で継続していただければ幸いです。
- ・お世話になりありがとうございました。面識のない異分野の先生方と交流できる機会ですので、対面での開催の方が有り難く存じます。
- ・幹事の方のご苦労に感謝申し上げます。
- ・対面で行わないと個別の講演だけになって、領域横断の意義がないと思う。
- ・最新の物性科学を学ぶこと。

- ・領域間での若手の交流。従って、できれば対面実施が望ましいと思われま
- ・特に領域代表の先生への負担が多くなるように見えますので、可能な限り負担を減らすスケジュールか、参加について柔軟に対応できるような研究会であればと感じました。

以上、アンケートにご協力頂きありがとうございました。
今後より良い研究会を開催するために役立てて参ります。